

■実践事例 6 【言語障がい】 中学校・第 1 学年（F さん）

難発の吃音があり、話すことに自信を喪失している生徒に対し、楽に話す経験を重ねることを通して自分の吃音を受け入れ、自信を持って話すことを目指した自立活動の指導

1 指導内容を設定するまで

実態把握


学級担任

F さんは、友達と仲良く活動することができる反面、吃音に悩んでおり、人前で話すことに対して強い不安を感じています。

生徒のよさを把握していますね。**吃音の状態や苦手とする場面**は把握していますか。


特セン所員



話の始めに声や語音が非常に出にくい状態になる難発（語頭音の阻止）です。慣れない人との挨拶や人前で話すような場面など、注目を浴びたり緊張を伴ったりする場面が特に苦手ようです。

実際の生活場面での観察による情報ですね。どのような環境で、障がいの状態を把握されましたか。



生徒が慣れている場所での何気ないやり取りや関わりを通して、言葉の理解と表出、コミュニケーションに関する実態を把握しました。

実際の生活の中で、本人が失敗したと感じたり、困ったりした経験はありますか。



例えば通学时、バスの運転手に挨拶するとき吃音が出てしまい、後ろの人たちを待たせたことをいつも気にしており、引け目を感じています。

F さんは、**自分の吃音を受け止められていますか。**



自分の話し方を恥じ、隠そうとしたり、回避しようとしていたりしているため、受け止められていないのではないかと感じています。自信を無くし、やりたいことを諦めてしまわないか心配です。

なるほど、心理的な安定や人間関係の形成、コミュニケーションの区分から実態を整理できそうですね。



課題の整理

目標の設定



失敗したり困ったりした経験から、自信をなくしています。
また吃音が出てしまうのではないかと不安感や恐怖感から、発言や行動が消極的になっていることが課題と言えます。



なるほど、吃音について正しく理解するとともに、自信を持たせる指導が必要になりますね。



はい、吃音の理解を深めることで自身の吃音を受容し、自分らしく生きていくことができるようになってほしいです。

項目の選定



Fさんの指導目標を達成するためには、**6区分27項目の中からどの項目を関連付けるとよいでしょうか。**



自分の特性などを理解し、集団の中で状況に応じた行動ができるようになることが大切であるため、「人間関係の形成(3)」や「心理的な安定(2)」の項目等と関連付けて指導内容を設定します。

指導内容の設定



言葉の話しやすさは、本人の気持ちや周囲の接し方によって変わりますから、受容的で温かな雰囲気の中で「楽に話せた」と実感できる経験を重ねていくことが大切だと考えています。



そのために、教師と楽しく取り組む活動の中に、意図的に苦手な発音や必要と想定される言葉を使う場面を設定したいと思います。



なるほど。話すこと自体に意識が集中しないよう自然なやり取りや関わりの中に、指導したい言葉を意図的に取り入れることがポイントなのですね。



また、Fさん自身が吃音のことを理解することは、自己理解を深めたり、対処するための方策を検討したりすることにつながるため、実態に応じた吃音理解の学習にも取り組みます。



そうですね、吃音について客観的かつ前向きに捉えられることは大切なことですね。

2 指導内容等の整理

情報収集	Fさんの障がいの状態や長所、課題等について情報収集（詳細は35ページ）					
実態把握	自立活動の区分に即した整理	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き
		健康状態は良好で、生活のリズムは確立している。 吃音に関する知識が少ない。	学校では安定しているが家庭ではかんしゃくを起こすことがある。 吃音が出て失敗することを過度に気にして、引きずってしまう。	初めての人と関係を作るためには時間を要する。 人に迷惑を掛けたくないという思いが強い。 友達と仲良く活動することができる。		話をしようとする時に、過度に体に入力がある。
課題の整理	・吃音を悪いことであると捉える傾向があり、人前で話すことを嫌がるような様子が見られる。楽に話すことができた体験を積むとともに、吃音について理解を深めることで消極的な姿勢を改善し、吃音が出ても気にせずに話すことができるようにする必要がある。					
目標の設定	・楽に話す体験を重ねながら、吃音を気にせずに話す。 ・自分の吃音について理解を深める。					
項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション
指導内容の設定	【健(4)、心(2)、人(3)】	【心(3)、コ(2)(4)(5)】	【心(2)、人(3)】			
	① 吃音について正しい知識を身に付け、自身の吃音を肯定的に受け止めて、前向きな自己認識を形成する。	② 様々な話し方や読み方を身に付け、楽しい雰囲気の中で楽に話す体験を積む。	③ 結果よりも過程に価値を持てるようにすることで、声が詰まることを気にせずに、自分の伝えたいことを最後まで話す。			

※赤枠に関する指導については、「3 指導の実際」を参照

3 指導の実際

◇ 指導内容②に関する指導

- ・言葉を使ってやり取りを楽しむゲームに取り組み、苦手な発音や言いにくい言葉を楽に話す経験を積むことで、吃音を気にせずに話することができるようにする指導。

○ 「ナンジャモンジャ」を活用した自立活動の指導例



【「ナンジャモンジャ（ミドリ）」株式会社すごろくや】

「ナンジャモンジャ」の基本的なルール

- ・1人ずつ順番に、山札から1枚ずつカードをめくる。
- ・現れたのが初めて見るナンジャモンジャだったら、自由な発想で、ふさわしいと思う名前を付ける。
- ・後で同じ絵のナンジャモンジャが出てきたら名前を言えるように覚えておき、まためくって重ねて…を繰り返す。
- ・もし、すでに名前が付けられたナンジャモンジャが現れたら、誰かが正しい名前を素早く言う。
- ・正しく言えた人が、それまでに重ねられたカード束をもらう。

○ 指導の流れ

- (1) カードをめくる順番を決める。
- (2) ルールに沿ってゲームを実施する。

☆「おはようございます星人」や「ありがとうマン」など、吃音が出やすい単語を意図的に入れて命名し、遊びながら繰り返し練習する。声を出すことを楽しむ。

☆吃音が出てつらそうな時には、話しやすい単語を多くすることで負荷を軽減する。

【指導のポイント】

- 吃音が出たとしても教師は態度や関わり方を変えずに指導することで、Fさんが吃音が出ることを気にしないで話そうとする気持ちを育むこと。
- 話す自信や意欲を向上させるために、感じたことやうまくいったことなどを生徒本人の言葉で振り返ること。
- 生徒が主体的にコミュニケーションを展開するために、好きなことや得意なことを取り入れ、達成感を味わえるように配慮すること。
- 滑らかに話せることが良いこと、吃音が出るのが悪いことという意識を軽減させるために、吃音についての理解を深めること。

【指導の記録】[○…成果 ▲…課題]

(1) 生徒の変容

- 苦手な言葉を楽に話すことができた成功体験を積むことにより、話すことへの意欲が向上し、吃音が出ていても気にせず話す様子が見られるようになった。
- 話し方よりも話す内容が大切だと考えるようになり、自分からほかの人に話し掛けるなど、積極的な行動が増えてきた。

(2) 指導の評価・改善

- 吃音について正しい知識を得られるように指導を行ったことで、自分の障がいの状態について客観的に捉えることができるようになり、吃音の受容につながった。
- ▲ 苦手な場面での緊張を解消するための語音練習や、声が詰まってしまったときの対応方法について、本人の気持ちを確認しながら、検討する必要がある。